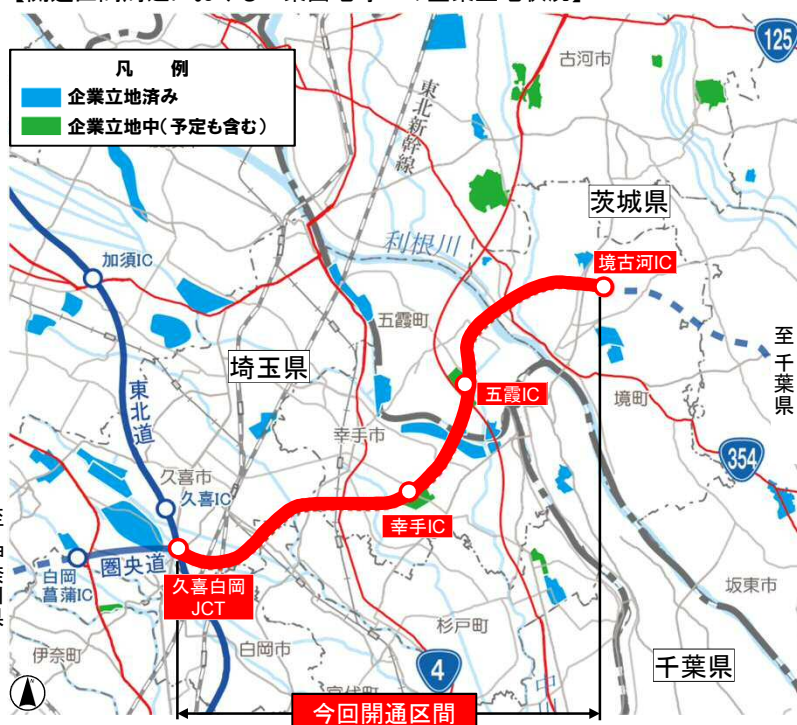


効果② 国際競争力と成長 ～民需の拡大～

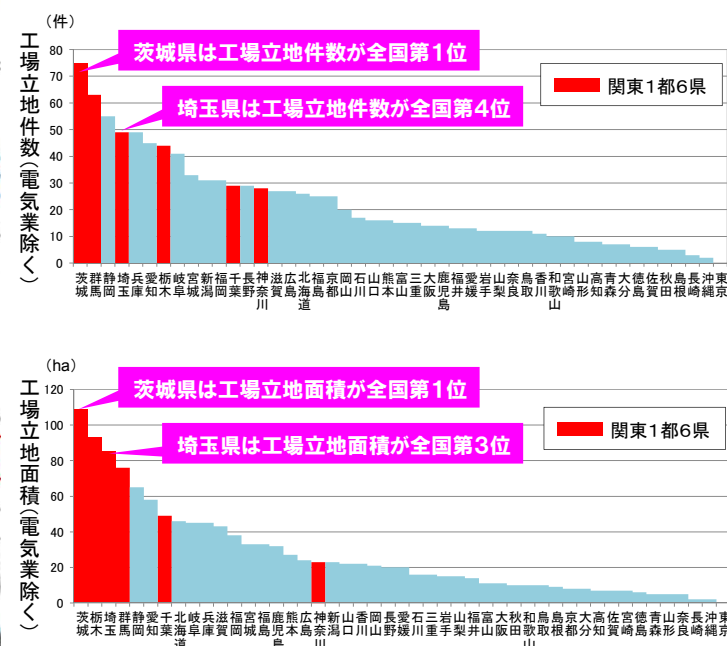
- 平成26年の工場立地件数及び面積は茨城県が全国第1位。今回開通区間においても沿線に物流施設や工場が立地するなど、民間の投資が喚起されています。
- 沿線に立地する企業の方に、移動時間の短縮を実感頂いています。
- 業務効率の向上、市場への運搬回数の増加などに期待していますとの声を頂いています。

物流施設や工場の立地等、民間の投資を喚起

【開通区間周辺における工業団地等への企業立地状況】



【都道府県別の工場立地件数及び面積(平成26年)】



出典) 工業団地等の位置: 埼玉県工場適地図(平成26年度版)、茨城県圏央道産業コンプレックス基本計画(H25.4)、圏央道沿線ナビホームページの産業情報をもとに作成。
 工業団地等の区分: 沿線自治体のホームページ及びヒアリング結果をもとに作成。(平成27年2月4日時点)

出典) 工場立地動向調査(経済産業省)
 「平成26年(1月～12月期)における工場立地動向調査について(速報)」

沿線に立地する企業の声

【物流企業の声(茨城県内)】

- ・ 圏央道が開通するまでは、久喜と古河の営業所間の移動時間は約60分程度かかっていましたが、20分以上短縮されました。
- ・ ドライバーの拘束時間も削減し、業務効率も向上・改善されると思います。

開通前後の走行ルート例



【JA茨城むつみ関係者の声】

- ・ 東北道経由で都内の市場(築地、大田等)に行く場合、久喜ICまで約40分かかっていましたが、圏央道の開通により、久喜白岡JCTまで約20分で行けるようになりました。
- ・ 今後の開通により、都心を通せず神奈川の市場(横浜、平塚)への運搬も可能になるため、運搬回数の増加なども期待できます。

開通前後の走行ルート例



出典) 平成27年4月7日 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

出典) 平成27年4月8日 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)